

令和2年度（2020年度）行政評価シート【個表】

令和 2 年 8 月 17 日

評価対象事業		評価者	下水道河川課担当課長 加藤 隆志
都整-29	実施事業	雨水排水施設維持管理費 ■ 自治事務 (特別会計) □ 法定受託事務	主管課 下水道河川課 関連課 浄化センター
	総合計画上の位置付け	分野 下水道・河川	施策の方針 下水道の整備・管理

1 事業の目的

対象	市民等
意図	大雨や台風による洪水や溢水から市民等を守るため。
効果	低地排水ポンプ場及び河川・水路護岸等の雨水排水施設の良好な状態を保持する。

2 令和元年度(2019年度)に実施した事業の概要

・台風や大雨による溢水や洪水等の被害を未然に防ぐため、水路や排水溝等の雨水排水施設の修繕を行うとともに施設のしゅんせつ・清掃等の業務を委託した。
--

3 事業費等基礎データ

データ区分	30年度(2018年度)決算	01年度(2019年度)決算	データ区分	02年度(2020年度)当初予算	備考
人口等のデータ	人口	176,308人	人口		・各年3月31日 (住民基本台帳)
	世帯数	81,763世帯	世帯数		
	事業の対象者数		事業の対象者数		
運営資源状況	決算値(千円)	18,190	47,577	当初予算(千円)	
	国県支出金			国県支出金	
	地方債			地方債	
	その他	3,634		その他	
	一般財源	14,556	47,577	一般財源	
	人員配置数	2.8	2.8	人員配置数 <small>会計年度任用職員配置数</small>	
事業経費運営	人件費(千円)	22,142	22,345	人件費(千円)	0
	総事業費(千円)	40,332	69,922	総事業費(千円)	
	市民1人当りの経費(円)	229	396	市民1人当りの経費(円)	
	対象者1人当りの経費(円)			対象者1人当りの経費(円)	

4 評価結果

※「効率性」「妥当性」「有効性」「公平性」「協働」については、ブルダウンで選択。

効率性	事業費に削減余地はないか	2. ない	
	関連・類似事業との統合はできないか	3. 統合できない	
妥当性	事業の実施に対する市民ニーズはあるか	2. 増大している	
	事業の廃止・休止による市民生活への影響は大きい 今後とも市が実施すべき事業か	3. 廃止・休止による影響は大きくある 5. 豊かな市民生活に寄与することから、今後とも市が実施する必要がある	
有効性	事業の成果は得られているか	2. 成果は概ね出ているが、更なる努力は必要である	
	事業の上位施策に向けた貢献度は大きい	3. 事業の方向性や手法は概ね適切であり、一定程度貢献している	
公平性	受益者負担は公正・公平か	△.負担未導入 △-3. 受益者が特定できないため、受益者負担を求めることができない	
	協働	市民等と協働して事業を展開しているか △.協働未実施 協働実施済の場合のパートナー	
事業内容の方向性	<input type="checkbox"/> a: 事業内容を見直す ⇒ <input type="checkbox"/> b: 事業内容は現状通りとする <input type="checkbox"/> c: 事業を休止又は廃止する <input checked="" type="checkbox"/> d: 他事業と統合し、本事業は廃止する ⇒	見直しの種類 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> その他	見直しの内容 下水道 事業へ統合
	予算規模の方向性 <input type="checkbox"/> A: 予算規模を拡大する <input checked="" type="checkbox"/> B: 予算規模は現状維持とする <input type="checkbox"/> C: 予算規模を縮小する	事業内容・予算規模の方向性設定の理由 第4期基本計画実施計画において下水道事業に係る予算については、公営企業会計に移行したことからすべての事業を「下水道事業」に統合した。	
総評(評価に対する考え方、根拠等)	大雨や台風による浸水被害から、市民の生命や財産等を守るためには、雨水排水施設を健全に維持していく必要があることから、事業費の拡大が必要である。 平成30年度に雨水排水施設の損傷箇所を把握するために外観目視調査を実施し、令和元年度には損傷箇所の詳細調査を実施した。令和2年度以降は、その結果に基づき修繕・改築計画を策定していく。(予防保全型管理への転換を図っていく。)		

令和元年度(2019年度)事業実施にあつての課題(前年度未解決の事項を含む)	施設の老朽化が進み、事後対応で修繕を行っているが、未実施箇所が積み残されている。	
課題解決のために行った令和元年度(2019年度)の取組	平成30年度に雨水排水施設の損傷箇所を把握するために外観目視調査を実施し、令和元年度には損傷箇所の詳細調査を実施した。	<input type="checkbox"/> 解決 <input checked="" type="checkbox"/> 一部解決 <input type="checkbox"/> 未解決
未解決の課題、新たな課題とその理由	台風15号・19号の被害等による災害対応について、権利関係の整理等に時間を要しており、本復旧が終わっていない箇所がある。	

○ 他市比較・ベンチマーク(県内外自治体など他自治体や民間団体との比較値)

比較事項								
団体名								
他市実績								

当該事業実施に伴う他市比較に関する考え方	
----------------------	--

◎ 事業実施に係る指標

指標の内容	雨水幹線の補強修繕					単位	m	指標の傾向	↘	備考
当該指標を設定した理由	年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)	令和元年度までの施工実績		
道路下に埋設されている雨水幹線は、劣化箇所等の補強修繕が継続的に必要なため。	目標値	200.0	200.0	200.0	200.0	200.0	200.0			
	実績値	200.0	200.0	593.7	1,374.0	0.0	0.0			
	達成率	100.0%	100.0%	296.9%	687.0%	0.0%	0.0%			

指標の内容	修繕要望対応件数					単位	件	指標の傾向	⇒	備考
当該指標を設定した理由	年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)	令和元年度までの施工実績		
日常的に寄せられる雨水排水施設の修繕要望の対応について、継続的な対応が必要なため。	目標値	150.0	150.0	150.0	150.0	150.0	150.0			
	実績値	170.0	145.0	170.0	161.0	253.0	230.0			
	達成率	113.3%	96.7%	113.3%	107.3%	168.7%	153.3%			

当該事業実施に伴う指標の推移に関する考え方	雨水幹線の老朽化が進むため、継続的に年200mを目標に修繕を実施していく。日常的に寄せられる要望については、年度毎に件数、内容が異なるため、要望内容を精査し、優先順位を決めて、年150件を目標に継続的に対応していく。
-----------------------	--